



マサイ日記を読み解く

Llewlyn Davies, *Diary of a Maasai village-Part-1-The Prophet's Family* (1984) 12分

<マサイ日記を読み解くキーワードと社会的・文化的背景>

富・牛・妻・子ども

1985年における予言師の家族に焦点が絞られている。映像が撮影された時、彼（セマウ）は80歳であった。

「村は、セマウに帰属する。マサイの目からは、富んだ男だ。現に13人の妻と、60人余の孫と住む。11人の既婚の息子、彼らの妻たち、子供たちも、村に住む」。

「1960年代中頃、セマウの群れは、2000頭だった。今は、主に疫病で、村の群れは750頭足らずだ」

「大勢の孫の割礼を見た者は、永遠性を獲得する。彼の名前は忘れられない。死後、安らかに眠れる。埋葬される。普通の人の名前は忘れられ、村外に放置され、ハゲワシやハイエナに食われる」

<マサイ日記Part 1より>

メリッサ: マサイで富める者とは？

予言師: 富める者は、子供たちと牛を持つ。
そして妻たち、多くの妻を持つ

メリッサ: 多くの牛を持っているが、妻のない男は？

予言師: 彼は富者でない

メリッサ: なぜ？

予言師: ただの男だ。

メリッサ: なぜ、女たちや子供たちがよいの？

予言師: 彼女たちは、富だからだ。富者が亡くなると、儀式がある。
これが善い。儀式のようにする。

メリッサ: 貧者は？

男: 亡くなると悪い。無と同じだ。投げ出され、忘れられる。
彼の名は、二度と話されない。

メリッサ: では 富者の名は？

男: 富者が子供たちを残して、亡くなると、彼の名は、
依然として残る。死んでないかのようだ。
子供たちの中に生きる。

財産は牛であるが、女性は家畜を所有できない。

女性⇒男性の所有する牛に依存

父⇒夫⇒息子 が所有する牛の乳を搾る。

息子を一人前にすること

女性にとって重要なこと

女には家畜の所有権がない。生きるためには、女たちは、牛を持つ男に付着する。父に、夫に、そして息子に

マサイの女の多くは、
西洋の財産保有のしぐみに興味をしめず。

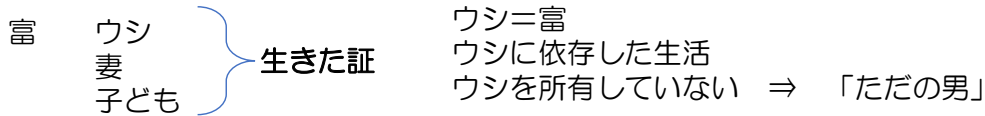
メリッサのコメント

「村で過ごした2年の間、彼女たちは、私たちの文化に、興味を示さなかった。マサイの女たちの唯一の質問は、相続法に関わることであった。

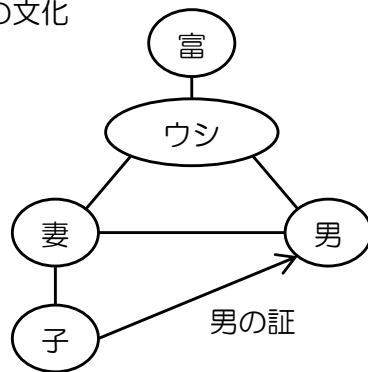
“貴方は兄弟と同権なのですか？”

マサイの女たちは、家畜を所有しないので、生涯まったく自立できない。女たちは、その弱みを認識している」

<マサイ族文化における富とは>



富とは
マサイ族の文化

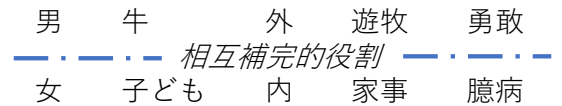


結婚

男 遊牧 ウシ ⇒ 女性をえる

ウシと女性の交換

婚資 男 ウシ ⇒ 女性



<割礼儀礼>

少女⇒大人⇒結婚

割礼儀礼 少女⇒父の家⇒夫の村に

戦士は、未婚で年長者の村に住まない。大半は森ですごし、放浪する。
戦士が帰村すると、少女は走り使いとなる。

少女も儀礼で割礼する。男の割礼に相当する。
それまで、少女たちは、まとまって戦士団に帰属する。

少女はのん気な生活を送る。あまり働くこともなく、
戦士たちにちやほやされ、しかも父の村に安住する。

成長するにつれての心配
儀式を受け、大人になるまで妊娠してはいけない。

⇒ 両親にとっても重要

- 娘が順調に女に成長したこと。 誇らしげに披露される
- 近隣の人たちが参集し、蜂蜜酒で祝う。
⇒村全体の繁殖を増加させる女の出現
- 父と母が赤い粘土を塗る。
- 祝祭の頂点で、
⇒母 女客の服装をバターで清める
⇒父 女たちに宝飾を着ける



年寄り K: 私が切る
少女 S: その彼女です
年寄り K: 私が切ると、言った
メリッサ: この仕事に馴れている?
年寄り K: この辺りの少女全部を、切った。
メリッサ: 割礼は良いこと?
年寄り K: まことに良い。
メリッサ: 割礼されないと、どうなる?
年寄り K: 私たちの土地の人々が? それは、恐ろしいことになる。
メリッサ: なぜ?
年寄り K: 恐ろしいことになる。割礼なしでは、残れない恐ろしいことになる。
メリッサ: 私は割礼していないこと、知っている?
年寄り K: 知っている。貴方はしていない。それは悪くない。
昔からの慣習だからだ。マサイにも、昔からの慣習がある。男も女も割礼される。

<シーンでの会話>

ノルピヤヤ: 少女は、早く割礼を受けたい。妊娠しなければうまくいく。
少女は、成長すると、男にまわりつかない。妊娠したくないのだ。
戦士とただ遊んで、夜は母の家で寝ます。
メリッサ: 少女は、幸せですか?
ノルピヤヤ: まことに幸福だ。儀礼中、砂糖と蜂蜜を醸し、
父は飲み、母も飲む。彼らはうっとりし、幸福だ。娘は、
妊娠していない。だから蜂蜜酒を飲む。そして、両親が歓喜する時である。
ノルピヤヤ: 神が、昔にはじめたことです。今、貴方たちは割礼しない。
それは昔からの慣習ですか?
メリッサ: そうです。
ノルピヤヤ: 我々は、この慣習を重んじています。神が与えたからです。
ノルピヤヤ: 少女は、早く割礼を受けたい。妊娠しなければうまくいく。
少女は、成長すると、男にまわりつかない。妊娠したくないのだ。
戦士とただ遊んで、夜は母の家で寝ます。

割礼儀礼⇒家族内部のこと

「少女にとっては、
子供時代と父の村との両者からの離別だ」。

少女は、予言師の息子と結婚する。父が取り決めをした。

「儀礼が無邪気な少女を、成熟した思慮深い女に変える」それを象徴する行為
「頭を剃り、子供時代の名を捨て、妹に宝飾を下げ渡す。前の人生を脱ぎ捨てる印だ」
「割礼後、彼女は、産出力に満ち、妊娠する資格を得る」

この儀礼は少女ばかりでなく、両親にとっても重要である。